

責任が
次代を
ひらく

自民党
市会議員

関 勝 則

せきかつのり



LINE

HP

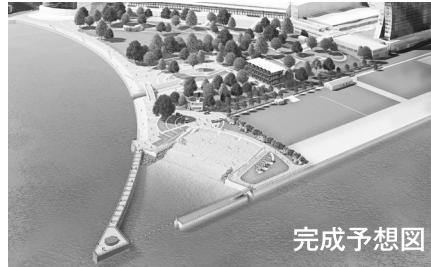
市政レポート 2024年7月号《vol:216》 編集/発行 市会議員 関勝則政務調査事務所 横浜市磯子区中原2-1-20-102

令和7(2025)年度の完成を目指す

臨港パーク先端部「砂浜の整備」状況

臨港パークは、広々とした芝生広場や曲線を描いた階段状の親水護岸が象徴的な都心臨海部最大の緑地で、水際線からの景色は、ハンマーヘッドや大さん橋、横浜ベイブリッジなど横浜港の景色が一望でき、家族連れや観光客などで賑わうみなとみらい地区のシンボルとなっています。

私が令和4年の決算特別委員会で臨港パーク先端部等の整備について質してから2年が経過したことから、今号では当時の質疑を振り返り、その後の進捗状況をお伝えして参ります。



完成予想図

臨港パーク先端部整備事業についての主な質疑 《令和4年度決算特別委員会》

質問：令和3年度に臨港パーク先端部の整備事業に初めて予算が計上され、計画策定に向けた市民意見募集が行われたが、市民意見募集の結果と先端部の検討状況を伺う。

答弁：自然観察や環境学習、ビーチスポーツ等が楽しめる場所として、砂浜や藻場・浅場の整備を期待する声を多くいただきしたことから、それらが造成できるよう規模や勾配、深水について専門家の意見を取り入れ計画の検討を行っている。

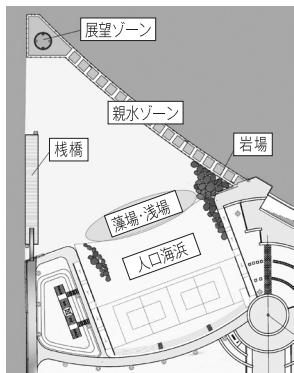
質問：私も砂浜の整備は大いに賛成するところで、多くの方々も高い関心を寄せられているが、砂浜や藻場・浅場をどのように活用していくのか。

答弁：砂浜についてはお子さんを連れたご家族などに景色を楽しみ、海に親しめる場となるよう検討し、あわせてビーチスポーツでの活用についても考えていく。藻場・浅場は、CO₂を吸収するブルーカーボンとしての機能があることから、小中学生の環境学習の場や環境団体の活動拠点としての活用を検討していく。

その後の進捗状況

その後、様々な検討を経て令和5年から本格的に整備が始まり、6年度予算では3億7800万円を計上しました。

現在は地盤改良や親水護岸の本体となるブロックの据付工事が進められていますが、順次砂浜や藻場・浅場、展望ゾーン、観光船発着桟橋などの整備を進め、令和7(2025)年度中の完成を目指します。



海洋都市に新たな観光スポット

横浜市では平成27年に、産学官がこれまで以上に連携して海洋に関する取組を推進していくため「海洋都市横浜うみ協議会」を設立し、教育・研究・産業など様々な活動の拠点となり、海の可能性を感じることができる「海洋都市横浜」の実現を目指しています。協議会では毎年8月に「うみ博」を開催し、子供達に海の多様な魅力を発信し、海洋における生物や環境について学ぶ場を提供しています。

こうした取組に加え、臨港パークで行われている整備事業は市民の方々に海をより身近に感じていただく絶好の機会となります。また、令和5年の市内の観光入込客数が3600万人であったことが先日発表されました。コロナ禍を経て国内外からの来客数が着実に増加していることから、新たな観光スポットにもなることが大いに期待されます。引き続き着実な整備に向けしっかりと取り組むと同時に世界に誇れる海洋都市の実現を目指して参ります。